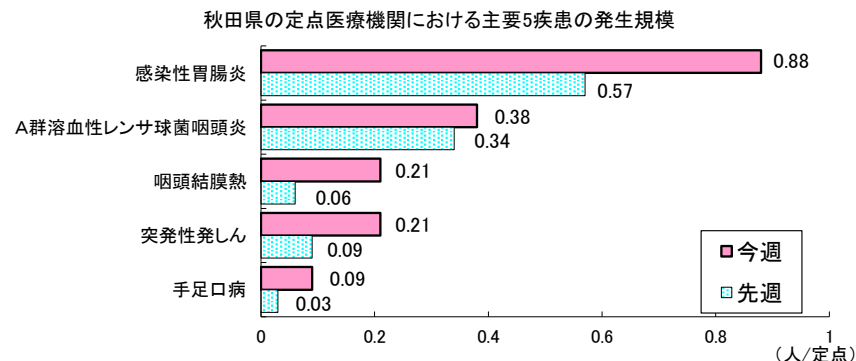




【第3週の発生動向】

< 定点把握対象疾患(週報)・前週比 >

1. 感染性胃腸炎は、県全体で1.5倍に増加しています。保健所別では、秋田市、大館、北秋田、能代、秋田中央、大仙、湯沢で増加、横手で同規模となっています。
2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で1.1倍に増加しています。保健所別では、秋田市、大館で増加、秋田中央、大仙、湯沢で減少しています。
3. 咽頭結膜熱は、県全体で3.5倍に増加しています。保健所別では、大館、由利本荘、湯沢で増加、秋田市で減少しています。



発生報告

< 五類定点対象疾患(週報) >

疾患名	秋田県			秋田市			大館			北秋田			能代			秋田中央			由利本荘			大仙			横手			湯沢			
	第2週	第3週	増減	第2週	第3週	増減	第2週	第3週	増減	第2週	第3週	増減	第2週	第3週	増減	第2週	第3週	増減	第2週	第3週	増減	第2週	第3週	増減	第2週	第3週	増減				
RSウイルス感染症																															
インフルエンザ																															
咽頭結膜熱	0.06	0.21	↗	0.29		↘		0.25	↗									0.50	↗							1.00	↗				
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.34	0.38	↗	0.43	1.00	↗		0.75	↗						1.25	1.00	↘			0.25		↘				0.75	↘				
感染性胃腸炎	0.57	0.88	↗	1.00	1.17	↗		0.25	↗			1.00	↗	1.33	1.67	↗			1.25	1.75	↗			0.25	0.50	↗	1.00	1.00		0.75	↗
水痘	0.09	0.06	↘					0.75	↘									0.50	↗												
手足口病	0.03	0.09	↗									0.50	↗					0.50	↗	0.25		↘									
伝染性紅斑	0.03	0.03													0.25	0.25															
突発性発しん	0.09	0.21	↗	0.43	0.50	↗		0.50	↗													0.25		↗				0.25	↗		
ヘルパンギーナ																															
流行性耳下腺炎																															
川崎病																															
急性出血性結膜炎										*	*		*	*		*	*									*	*		*	*	
流行性角結膜炎	0.14		↘	0.33		↘				*	*		*	*		*	*									*	*		*	*	
細菌性髄膜炎															*	*															
無菌性髄膜炎															*	*															
マイコプラズマ肺炎															*	*															
クラミジア肺炎(オウム病を除く)															*	*															
感染性胃腸炎 (ロタウイルスによるもの)															*	*															

(注) 表の数値は、観測定点としている県内の医療機関から報告された患者報告数を、1定点あたりに換算した人数を示し、前週と比べて「↗」は増加を、「↘」は減少していることを示します。

「*」印は、当該疾病に関わる定点医療機関が指定されていないことを、空欄は全ての定点で当該週における患者の報告数がなかったことを示します。



発生報告

<全数把握対象疾患>

・四類感染症のレジオネラ症が横手保健所管内から1人、報告されました。
・五類感染症のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症が由利本荘保健所管内から1人、侵袭性肺炎球菌感染症が由利本荘保健所管内から1人、梅毒が秋田市保健所管内から2人、百日咳が北秋田保健所管内から1人、報告されました。
・指定感染症の新型コロナウイルス感染症が秋田市保健所管内から20人、大仙保健所管内から5人、横手保健所管内から7人、湯沢保健所管内から2人、報告されました。

<全数把握疾患>

類型	疾患名	1週-2週		3週
		全国	秋田	秋田
一類	エボラ出血熱			
	クリミア・コンゴ出血熱			
	痘そう			
	南米出血熱			
	ペスト			
	マールブルグ病			
	ラッサ熱			
	急性灰白髄炎			
	結核	392	3	
	ジフテリア			
二類	重症急性呼吸器症候群			
	中東呼吸器症候群			
	鳥インフルエンザ(H5N1)			
三類	コレラ			
	細菌性赤痢	1		
	腸管出血性大腸菌感染症	32		
四類	E型肝炎	24		
	ウエストナイル熱			
	A型肝炎	4		
	エキノコックス症	2		
	黄熱			
	オウム病			
	オムスク出血熱			
	回帰熱			
	キャサヌル森林病			
	Q熱			
	狂犬病			
	コクシジオイデス症			
	サル痘			
	ジカウイルス感染症			
	重症熱性血小板減少症候群			
	腎症候性出血熱			
	西部ウマ脳炎			
	ダニ媒介脳炎			
	炭疽			

類型	疾患名	1週-2週		3週
		全国	秋田	秋田
四類	チクングニア熱			
	つつが虫病	38		
	デング熱			
	東部ウマ脳炎			
	鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)			
	ニパウイルス感染症			
	日本紅斑熱			
	日本脳炎			
	ハンタウイルス肺症候群			
	Bウイルス病			
	鼻疽			
	ブルセラ症			
	ペネズエラウマ脳炎			
	ヘンドラウイルス感染症			
	発しんチフス			
	ポツリヤス症			
	マラリア			
野兔病				
ライム病				
リッサウイルス感染症				
リフトバレー熱				
類鼻疽				
レジオネラ症	31		1	
レプトスピラ症				
ロッキー山紅斑熱				
五類	アメーバ赤痢	21		
	ウイルス性肝炎(E型及びA型を除く)	5		
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	37		1
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)	1		
	急性脳炎	8		
	クリプトスポリジウム症			
	クロイツフェルト・ヤコブ病	5		
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	24		
	後天性免疫不全症候群	18		
	ジアルジア症	2		
	侵袭性インフルエンザ菌感染症	13		
	侵袭性髄膜炎菌感染症			
	侵袭性肺炎球菌感染症	41		1
	水痘(入院例に限る)	5		
	先天性風しん症候群	1		
	梅毒	117	1	2
	播種性クリプトコックス症	6		
破傷風	2			
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症				
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1			
百日咳	14		1	
風しん	1			
麻しん				
薬剤耐性アシネトバクター感染症				
指定	新型コロナウイルス感染症	67	34	

トピック

<家庭や施設等でのレジオネラ症対策について>

冬季は、乾燥やウイルス感染の予防対策として加湿器を使用している家庭や施設等も多いと思います。しかし、衛生管理が悪いとタンク内でレジオネラ症の原因となるレジオネラ属菌が増殖することがあります。レジオネラ症の患者報告数は、全国的に増加傾向にあります(図)。家庭や施設等でも、感染予防に努めましょう。

■症状

レジオネラ症は「レジオネラ肺炎」と「ポンティアック熱」の二つに分けられます。レジオネラ肺炎は、免疫力の低下した人が発症しやすく、特に高齢者や疾患等により免疫力の低下した人、免疫がまだ不十分な新生児では、重症化する危険性があるため注意が必要です。ポンティアック熱は、発熱、悪寒、筋肉痛といった症状がでますが、通常は一過性で治癒します。

■予防対策

レジオネラ属菌は、もともと自然環境中の土壌や水に存在する細菌です。通常、ヒトからヒトへは感染せず、レジオネラ属菌を含む土ほこりやエアロゾル(細かい水滴)を吸い込むことで感染します。次のことに注意して感染予防に努めましょう。

- 加湿器を使用する際は新しい水を入れ、水の継ぎ足しはしない。
- タンクはこまめに清掃し、使用しない時は水を抜いて乾燥させる。
- 循環式浴槽を使用している場合は、循環装置の清掃や浴槽水の交換を定期的に行う。
- 農作業や散水作業の際には、マスクを着用し、土ほこりやエアロゾルの吸入を防ぐ。

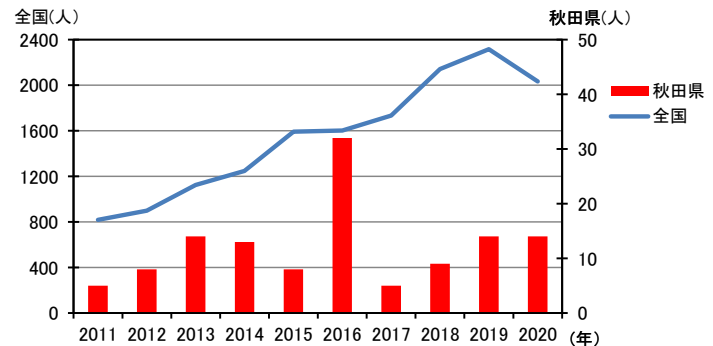


図 レジオネラ症の患者報告数の推移

感染症の集団発生報告

感染性胃腸炎の集団発生報告が2件ありました。

No.	所在地	施設名	報告日	有症者数			把握期間	症状
				利用者(園児、入所者等)	職員	計		
1	由利本荘市	西目こども園	1/18	140名のうち14名	38名のうち2名	16名	1/15 ~ 1/18	嘔吐、下痢
2		内越保育園	1/19	161名のうち10名	38名のうち0名	10名	1/15 ~ 1/19	嘔吐、下痢、発熱



【注意報・警報の発生状況】

疾患名	注意報	警報
	保健所(発生規模)	保健所(発生規模)
注意報・警報はありません。		

■ 注意報・警報の定義

【注意報・警報の定義】

- 1) 注意報: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があることを示し、流行の発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性がある(終息していない)ことを示します。
- 2) 警報: 大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。

対象疾患	注意報			対象疾患	警報		
	基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)		基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)
インフルエンザ	10	30	10	伝染性紅斑	-	2	1
咽頭結膜熱	-	3	1	ヘルパンギーナ	-	6	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	流行性耳下腺炎	3	6	2
感染性胃腸炎	-	20	12	急性出血性結膜炎	-	1	0.1
水痘	1	2	1	流行性角結膜炎	-	8	4
手足口病	-	5	2				

■ 保健所地域

保健所	所管市町村	保健所	所管市町村
大館保健所	大館市、鹿角市、小坂町	由利本荘保健所	由利本荘市、にかほ市
北秋田保健所	北秋田市、上小阿仁村	大仙保健所	大仙市、仙北市、美郷町
能代保健所	能代市、藤里町、三種町、八峰町	横手保健所	横手市
秋田中央保健所	男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村	湯沢保健所	湯沢市、羽後町、東成瀬村
秋田市保健所	秋田市		